

「胃を切ったらどうなるのか」



JA とりで総合医療センター

外科部長 圓城寺 恩 (エンジョウジ くん)

林アナウンサー：林アナ

林アナ：まずは、どういった病気で胃の手術をすることになるのでしょうか？

圓城寺：胃癌やひどい胃潰瘍の場合に胃の手術を行うことが多いです。しかし近年、胃潰瘍には薬がよく効くようになり、手術を行うことは非常に少なくなっています。胃癌も胃カメラで病気を切除できることもあり、胃を切除することは昔より少なくなっています。しかし、近年でも年間約5万例の胃切除の手術が日本で行われており、めずらしい手術ではありません。

林アナ：では、胃の手術を受けるとその後はどうなってしまうのでしょうか？

圓城寺：まずは胃癌の場合の切除ですが、胃癌の場所、進行具合により、胃の全摘、入り口側1/3の切除、出口側2/3の切除になります。本日は手術症例数の最も多い出口側2/3の切除についてお話しします。

想像通りだと思いますが、手術を受けた直後は手術前と比べてごはんを食べられる量が少なくなります。言い換えればちょっと食べたただけでお腹いっぱいになってしまうということです。

林アナ：すると、みるみるやせてしまわないのか？

圓城寺：胃を切った直後はどんどんやせていきます。術後半年で約10%やせてしまうと言われていています。半年を過ぎたころから少しは体重がふえますが元通りの体重に戻ることはなく、一度減った体重はなかなか戻りにくいのが現状です。

林アナ：やせてしまうと身体に力が入りにくかったりとか、体力的に問題はないのでしょうか？

圓城寺：問題は大いにあります。15%以上体重が減少した場合は体力の低下が著しく、望ましくない状況であると考えられています。しかし、現在はまだ、胃の手術後に体重がみるみる増えるような特効薬はなく、栄養士さんからの栄養指導などで体重の減りにくい食べ方などを学んでもらい各患者さんに食事の努力してもらっています。

林アナ：胃は切ってもまた膨らんで元通りに戻ると聞いたことがあるが、なぜずっと体重が戻らないのでしょうか？

圓城寺：よく患者さんからも「いつ頃、胃の大きさは元に戻るのか？」と質問を受けます。残念ながら切除した胃袋の大きさはそのまま元の大きさには戻りません。また、「腸が胃の代わりしてくれるんでしょ」と言われることもあります。腸が胃の代わりをしてくれるということもありません。

胃を切って何年もすると、それぞれの患者さんは自然と食べ方のコツなどがわかってきて、自分に合った食事の仕方を身につけていきます。そして自然と一日の食事が増えていきます。実際に胃の手術を受けた方が何年後かに食事を多く摂れるようになり「胃が元どおりに膨らんだみたいだ」とうまく表現したのでしょうか。それは小さくなった胃袋の体内環境に生活が慣れていった結果だと思えます。非常に文学的ないい表現ではありますが、医師としては「胃は元通りになることはない」とキチンと訂正をしておきたいと思えます。

林アナ：胃が元に戻らないのであれば、栄養失調にはなったりしないのでしょうか？

圓城寺：病的にやせてしまっていて、栄養失調で命にかかわるといことは、すごく稀です。しかしながら、胃は血液を作るのに必要な鉄分やビタミンB12の吸収に関与しているため、手術後しばらくして貧血になることがあります。

林アナ：貧血になった場合はどうすればいいのでしょうか？

圓城寺：術後に貧血になってしまった方には、鉄分の薬の内服をしてもらったり、ビタミンB12の注射をしてもらったりします。通常は投薬により日常生活に困るほどのひどい貧血になることはありません。

林アナ：胃を切った後に気をつけるべきこと何でしょうか？

圓城寺：胃を切った直後の食事にまだ慣れていない時は通常の朝昼晩の食事だけではどうしても摂取カロリーが不足してしまいます。そこで少量頻回の摂取、一回の食事ですぐにお腹いっぱいになってしまう分、朝昼晩の食事の間におやつを食べてもらったりして、しょっちゅう何かをつまんでいるような状態が胃を切った患者さんの理想です。

しかし、手術後しばらくして食事に慣れてくると朝昼晩の食事だけでも十分なカロリーと栄養を摂ることができるようになることも多く、胃を切ったからといって一生おやつを食べ続けなければならないということはありません。

林アナ：なんでも食べて良いのでしょうか？

圓城寺：食べてはいけないものというのはありません。

しかし麺類はのどごしがよくあまり噛まずに食べてしまいがちなので控えめにした方が無難です。炭酸飲料もお腹が張ってしまいやすいので慣れないうちは控えめにした方が無難でしょう。

また、「アルコールを飲んでもいいのか？」ともよく聞かれますが、胃を切った患者さんは酔っぱらいやすいということが知られています。実際の外来でも胃の手術を受けた患者さんが、手術するまではお酒に強かったのに、胃を切ってから缶ビール1本くらいで酔っぱらってしまうと言っていました。これに関しては個人差も非常に大きいことですのでどのくらい飲んでいいのかということは決められませんが、酔っぱらってトラブルを起こさないよう控えめに飲んだ方が良いのは間違いありません。

林アナ：そのほか、胃の手術を受けたために起こることってあるのでしょうか？

圓城寺：やせてしまうことがとても多いので、糖尿病の患者さんが胃を切った場合に糖尿病の数値が良くなることが多いと言われています。また実際に糖尿病の治療のために胃の切除を行うこともあります。日本では重度の肥満の方に限られますが、糖尿病治療のために胃を切除する手術が約7年前から保険適用となっています。

林アナ：実際に胃の手術を受けた場合、入院期間はどれくらいなのでしょう？

圓城寺：だいたい手術後10日くらいで退院される方が一般的です。胃を手術した場合、その後何日も水も飲めないのではないかと思われがちですが、最近は手術の麻酔が覚めた後数時間で水を飲んでもらい、術後3日～4日でお粥を食べてもらいます。最初のうちは思うようにお粥が入って行かないこともありますが、徐々に食事に慣れ

てもらい通常 10 日くらいでお粥がまずまず食べられるようになるので退院となります。ふうのご飯にもどるのは退院後で、自身の体調をみながら自己判断で固いごはんを食べてもらいます。

林アナ：最後に何かございますか？

圓城寺：世界的に見て、胃癌は欧米と比べ日本・中国・韓国など東洋で多い疾患です。しかし多くの胃癌はピロリ菌が原因で発生することがわかりました。胃癌の原因となりうるピロリ菌の除菌治療により近年の胃癌の患者数は減少傾向にあります。やがて胃癌の患者数はとても少なくなると予想されています。

しかしながらまだ現在は、胃癌の患者数は全ての癌の中で男性の場合は前立腺癌に次いで 2 番目に多く、女性の場合は乳癌、大腸癌、肺癌に次いで 4 番目に多い癌となっています。

我々の行っている日本の胃癌手術の技術は世界をリードするものであり、高い技術により安定した手術成績を誇っています。だからといって胃癌になっても大丈夫という話ではなく、胃癌にならず、胃を切らなくてもいいことが一番であることは言うまでもありません。

みなさんもしっかりと検診を受けて胃癌の予防と早期発見に努めていただければ幸いです。